

群馬県館林市での HHD 助成金開始までの経緯と HHD における助成金の可能性

医療法人社団田口会新橋病院¹⁾、医療法人社団田口会呑龍クリニック²⁾
○金谷 寿修¹⁾、石井 健児¹⁾、伏島 大介¹⁾、関根 良一²⁾、廣川 慶²⁾、
川俣 泰男¹⁾、青柳 左近²⁾、相川 厚¹⁾、大槻 実¹⁾、田口 修之¹⁾

2013年当院から在宅血液透析（以下 HHD）の希望者があった。HHD は通常の血液透析より食事制限の緩和や愁訴がなくなり生命予後も改善されるが経済的負担も増加する。そこで HHD 普及のため館林市長をはじめ社会福祉部へ「在宅血液透析実施に際して患者様ご負担軽減のお願い」の書類を提出し助成制度を設立するよう求めた。

2014年に自宅修繕費（リフォーム代）と電気・水道の費用の一部助成からスタートしたが、館林市は下水道普及率が約40%と低く、下水道整備エリアと浄化槽使用エリアに分かれ、浄化槽使用エリアでは HHD 専用排水処理槽が必要なことが分かった。HHD 専用排水処理槽は埋設工事を含めると約100万円と高額な費用が必要だったが、館林市と数回にわたって協議し、2016年に HHD 専用排水処理槽の購入費や排水処理槽の埋設工事費の助成が決定した。これによって館林市全域で患者個人の経済的負担を少なくすることができた。

その後、近隣の太田市や千代田町の患者からも HHD 希望があり、館林市と同じように協議を重ね、自宅修繕費（リフォーム代）と HHD 排水処理槽の購入費の助成が設立した。HHD の普及には地域行政の理解と助成制度

が必要である。